

氏名	ハイメ アルバレス <b>Jaime Alvarez</b>
学位の種類	博士(造形)
学位記番号	博第4号
学位授与日	平成23年3月7日
学位授与の要件	学位規則第3条第1項第3号該当
論文題目	<b>コミュニティ形成に向けたモビリティシステムへのアプローチ： 社会的組織と集合的文化の維持を目指して</b>
審査委員	主査 武蔵野美術大学教授 小林昭世 副査 武蔵野美術大学教授 小幡正敏 副査 武蔵野美術大学准教授 伊藤真一 副査 武蔵野美術大学名誉教授 森江健二 副査 慶応義塾大学大学院教授 松岡由幸

## 内容の要旨

### 1 本論文の構成

本論文は、都市コミュニティを活性化させるためのモビリティシステムについての研究である。都市コミュニティを活性化するために、本研究では、社会的組織 (social fabric) を強化し、伝統的な集合的文化 (collective culture) を維持する目的で、モビリティを計画し、社会的相互作用 (social interaction) の機会を増やすことを目指している。この目的に対して、文化人類学や社会学の理論や方法を取り入れ、デザインのアプローチと結びつけ、デザイン研究の取組みと調査の方法を提起している。本研究は、先行する社会科学等の研究領域からの応用だけではなく、調査をはじめとするケース・スタディを通して、コミュニティの社会的相互作用を査定するデザイン方法論あるいはデザイン方法を提示していることに特色がある。

論文の主な目次構成は以下の通りである。

第I部 リサーチの背景と問題設定、リサーチの戦略つまりアプローチに関する研究方法、先行研究とデザイン事例の概観

第1章 リサーチにおける問題及びリサーチへの取組み

第2章 社会的相互作用、モビリティの社会問題、及びコミュニティモビリティ

第II部 コミュニティのためのモビリティシステムデザインの方法論及びそれらを基礎付ける諸概念の検討

第3章 社会科学とモビリティデザインとの結合のための理論的な基礎

第4章 コミュニティの社会機構構築過程の理論的な概念化

第5章 事前調査：研究対象コミュニティの状況についての文献による検討

第III部 ケース・スタディと結論

第6章 メキシコシティのローカル・コミュニティのケース：社会・文化的なコンテクストの査定

第7章 メキシコシティのローカル・コミュニティのケース：物理的空間の査定

第8章 コミュニティを対象としたモビリティシステムの将来的ビジョン及び本論文の結論

2 本論文の概要

第I部 第1章では、メキシコシティにおけるコミュニティ開発の現状、アメリカ化されていくコミュニティの開発の方向に対して、コミュニティの社会的組織を強化し、集合的文化を維持する方向もあるのではないかという研究の動機からはじまり、コミュニティの社会的相互作用の機会を増やすモビリティを研究の課題とし、その実現のために、社会・文化的背景を考察しうるアプローチが設定され、論文の構成が示されている。

第2章では、モビリティの改善により進展する社会的相互作用について、情報学、環境デザイン、地理的研究、都市輸送等を通して検討されている。また、日本におけるコミュニティバスとメキシコの都市コミュニティにおけるタクシーの多様な類型が比較されている。

第II部は、モビリティデザインのための知識基盤、つまり社会的相互作用や集合的文化等の主要な概念が理論的観点から検討されている。

第3章では、ビークルを中心にとらえる従来のトランスポーターションと区別し、ユーザーの生活や移動の目的との関係を含んだ概念としてモビリティを規定し、モビリティデザインのためにユーザー中心のデザインの視点が提起されている。つまり「ユーザー、目的、そして、モビリティ・インフラ、ビークル、運用」からなるユーザー中心のデザイン要素と、社会的、経済的、環境的、そして文化的なコンテクスト、とくに「社会的、文化的コンテクスト」を結びつけるデザインのモデルが提起され、考察されている。

第4章では、社会的相互作用の概念が検討され、モビリティシステムのデザインとの関係が考慮され、再定義されている。また、社会学における社会的相互作用の諸類型、たとえば、「消極的—積極的」な社会的相互作用、「表面的—相互依存的」な社会的関係、「弱い—強い」社会的関係、そして「個人—集団—社会の水準」が比較され、モビリティのデザインのアプローチのために、「家—土地—通り—地域コミュニティ-シティ-シティの外」という物理空間的距離の近さの尺度と、「家族—親友—友人—知り合い」という人間関係

の強さの尺度により信頼や連帯が捉えられ、これらの尺度によって、第6章で社会的相互作用を記述する方法（ソシオグラム）を作成されている。

第5章では、コミュニティの社会・文化的特徴である集合的文化がメキシコの経済、社会、人口学的観点から考察され、ケース・スタディの対象コミュニティの集合的文化の要素として、「家族」、「主婦（母親）が役割」、「社交性」、「両親制度」、「多次元的時間意識」が主要なものとして抽出され考察されている。

第Ⅲ部 ケース・スタディと結論では、アグリコラ・オリエンタル・エル・ロデオが、人口比率において多数を占める人々が住む典型的なコミュニティとして設定され、ケース・スタディを通してデザイン方法論と調査の方法が考察されている。

第6章では、デザイン方法の応用として、コミュニティの社会・文化的特質を理解するために、三つの質的調査が示されている。コミュニティ内の日常生活及び人々の行動パターンの民族誌的「観察」、「個人的なインタビュー」、そして「グループインタビュー」である。個人的なインタビューにより、インタビューを受ける人の交友関係を中心とした社会的相互作用の特徴が第4章で規定されたソシオグラムの形で記述され、比較されている。グループインタビューからは、「モビリティに影響する交通事故や犯罪への恐れ」、「現行のマイクロバス移動サービスのもつデメリット」等の問題とともに、他方では、「コミュニティ内の典型的な移動パターンのための効率的な移動方策の必要性」、「コミュニティへの帰属意識」、「社会的相互作用への意向」、「モビリティシステムの計画に参加する意欲」が抽出されている。

第7章では、対象コミュニティの物理空間の次の要素をマップ化することで査定している。土地の利用、主要道路と二次的街道、住宅、教育施設、市場等商業施設、公共空間、教会等の主要な日常生活の活動場所、マイクロバス、大量公共輸送機関、タクシー、自転車タクシー等、利用可能な公共交通機関、そしてモビリティシステムを将来的に支える地域のビジネスが扱われている。

第8章では、モビリティシステムの路線、車両インテリア、導入、運用についてのガイドラインを提起することによって、モビリティシステムのポイント、たとえばモビリティシステムのデザインの主要な利用者や利用者の社交に影響を及ぼす問題と解決のための方策、主要な路線を決定するための着眼点、運用システム、インフラ、車両インテリアのポイントとモビリティシステム導入への住民参加型デザインが査定されている。

最後に、論文各章の結論が整理されている。

## 審査結果の要旨

### 1 本論文の成果と問題点

本研究が、メキシコシティだけでなく、多くの地域で重要性を増しているテーマである地域コミュニティを対象とし、コミュニティ形成のアメリカ化、近代化とは別の考えや方向性、つまり社会・文化的コンテキストから考察している点に本研究の独自性が認められる。

そのために、社会学、民族誌学等の研究方法論と調査方法から、モビリティシステムへのアプローチが、ユーザー中心のデザイン方法論とその社会的・文化的コンテキスト理解の理論の両方から組み立てられていることは興味深い視点である。また、コミュニティの社会組織を強化し、集合的文化を維持するためのモビリティシステムについて、理論ばかりでなく、民族誌学的な観察やインタビューをおこない、これまで乏しかった資料を提供している点も評価することができる。

予備論文では、モビリティシステムデザインのアプローチに対して、社会学、民族誌学等の研究方法論と調査方法が先行研究の解説として冗長に記述されている箇所があったが、この点については、研究目的と方法、結論の筋道を明快にするために、論文の目次構成に改善がはかられている。

しかしながら、問題点も指摘された。研究の基礎になる用語が、新しい研究分野であることもあり、日本語として必ずしも定着していないことにもよるが、十分に整理、洗練されていない箇所がある。また章と章の関連性、展開の記述が不十分な箇所があるので、これらの点に関しては、訂正が求められた。

### 2 最終試験と結論

2011年2月22日公聴会終了後に、論文提出者であるアルバレス・ハイメ氏に対し最終試験をおこなった。最終試験は、提出された論文について、審査委員が、逐次、問題点を指摘し、説明を求める形をとった。

質問は本論文の内容ばかりでなく、本研究の将来的な応用と展開にも及んだ。本研究の影響により、メキシコ社会人類学高等教育研究センターの三つ研究プロジェクト、「公共事業」、「地区改善」、「地域行政」に、2010年から「公共交通」が加えられることになり、この取組みへの、本研究の応用についてである。

質問に対して、アルバレス・ハイメ氏は、明快に応答を与えた。

審査員一同は、(1) 提出された書類が規定を満たすことを確認し、(2) 専門的な学術(デザイン)に関する学力を有すると認定し、(3) この論文が、コミュニティの活性化のためのモビリティシステムのアプローチを拓く研究として、この課題に対する実践と研究に寄与するものであると認め、武蔵野美術大学の博士(造形)の学位を授与するにふさわしいと判断した。